



◆ 野外オペ「テーレン」その②

9日。川又隊員のオペに4人で取り組みました。第四紀の氷河変動を解明するため、岩石を採取します。10時出発。岩石カッター、バッテリー、ハンマー、たがねなどの採取道具を分担して運びます。若い川又隊員は、20kg近くの荷物を背負いました。最初の目的地は、三角点。幸いにもテーレンは周囲3~4kmほどの小さな露岩地域です。20分足らずで到着しました。そこから、採取に適した風化度の低いフレッシュな迷子石を探し、いよいよ岩石採取です。採取域をマジックで縁取りし、走向・傾斜、天空率（12方位における水平面から天頂までの空の遮蔽率）を測定します。土井隊員がカッターで切り込みを入れ、主に白水隊員と私がハンマーとたがねで岩石を剥ぎ取ります。出来るだけ短冊状のまま採取したいため、たがねの角度、力加減を調整するも、石も負けていません。1kg以上のハンマーを振る手はパンパンになります。何十分もの格闘の末、ようやく取り終えることができました。また、川又隊員は、クロスチェック試料として、風化度測定用に迷子石が乗っている基盤の岩石採取もします。



三角点から露岩の状況を探る



迷子石に記された走向・傾斜と天空率

採取した岩石は、氷河から露出した年代を測定する試料として用います。具体的には、古地磁気の測定と宇宙線暴露による石英（SiO₂）O原子の¹⁰Be同位体生成率の測定により推定します。古地磁気を氷河変動に用いる取組みは初めての試みだそうです。テーレン以外にもスカーレンやスカルブスネスで計26カ所のサンプリングを行ないました。1年程度かけて分析します。お手伝いした手前、良い結果が出ることを願っています。

ここで一句 「迷子石刻む氷河の歴史かな」



石粉もなんのその。土井隊員



ハンマーに伝わる意気込み。川又隊員



慎重にたがねを操る。白水隊員

◆ JARE57 隊員紹介

川又 基人 (23) 夏隊同行者 茨城県出身

総合研究大学院大学 複合科学研究科

私立水城高校時代は野球に熱中。高3時に夏の甲子園に出場。茨城大学理学部地球環境科学コースに進学。地質・古地磁気学を専攻する。次第に古気候学や環境変動に興味を湧き、現大学院大学に進学。修士1年でありながら、同行者として抜擢される。南極では、岩石採取や地質調査を通して、第四紀の古気候変動（南極の氷河の変動）の解明を目指す。また、ドローンを用いて地形モデル作成のための空撮や風化度調査をおこなう予定だが、楽しみでもあり不安でもある。野球をやっていた頃は、英語の模試で50点ほどしか取れなかったが、部活引退後、猛勉強をし、センター試験では150点あまり取ることができた。皆さんへは「あきらめたら、そこで試合終了だよ」という漫画『スラムダンク』の自身が気に入っているフレーズを頂きました。研究者を志している。

南極授業でも、裏方として活躍してくれました。お世話になりました。



テーレンでの活動を終え、ヘリを待つ。

この数時間後、3週間ぶりの入浴